

# 好きな文筆続ける

20歳代のころから文筆

活動に親しみ、地元の文学同人誌にも作品を寄せていた豊岡市駄坂の神尾与志広さん(67)が、エッセーと短編小説をまとめた「カタツムリ行進曲」兵庫・豊岡発 フクロウ好きの桑々田舎暮らし」を自費出版した。

神尾さんは豊岡高校卒業後、豊岡市職員として公立豊岡病院の移転や市町合併に長年携わり、市議会議事務局長を最後に退職した。この間、50歳代を中心に仕事が多忙を極めた時期を除き、二十歳ころから時間を作って、

## 豊岡の神尾与志広さん

### 「カタツムリ行進曲」自費出版



「カタツムリ行進曲」を自費出版した神尾与志広さん―豊岡市駄坂で

今回は、在職時の作品

をまとめた「寒い受話器」に続く2冊目で、収録のエッセー50点と短編小説1点はいずれも退職後に書いたという。

表題のエッセー「カタツムリ行進曲」はカタツムの生態に触れつつ高速走行のリア新幹線を織り込み、カタツムの

ゆっくりとした歩みに見いだした価値をつづいた。同じくエッセーの「Sさんの大ナマズ」は子どもたちの、心に残った近所の人との関わりを心の動きも含め表情や動作を、映像のように細やかに描き出している。

絶えることがなかった。

神尾さんは「退職後、自分の時間が作れるのなら、好きなことに取り組む価値はあると思う」と語り「文章を書くことが好きで、書くことは自分のことを再認識する機会になる。継続したい」と話した。

B6判、224頁。1

200円(税抜き)。清

風堂書店(大阪市北区、

06・6316・146

0)発行。【浜本年弘】